

株式会社すみれ花店

岡山県倉敷市

<http://www.sumire-hanaten.co.jp/>



店舗概要

創業年 1949年(昭和24年)

売場面積 92.4㎡(28坪)

従業員 16人

営業時間 9:30~18:30

定休日 なし

売上高 132,679(千円)

商品構成

生花 88.0%

鉢 10.0%

その他 2.0%

経営方針

地域密着型の店舗として地元にも愛される商品の提供。

良い商品をできるだけ安く良心的に。

花で明るい社会・家庭をつくりたい。

目的や客層に合わせた商品提案

〔花と環境の調和〕

花は生活の様々なシーンで使われる。それぞれに欠かせない花材が古くからあるが、同店がデザインする花は、花そのものが自己主張するのではなく、花を飾る環境こそが主体となる。花は周囲の環境と一体となり、時によっては花が飾られていることすら気付かれないようなデザインを施し、自然環境のもとで調和する花の見せ方を追求している。

環境と花との調和の重要性に気が付いたのは、倉敷で本格的クラシックコンサートを30年の長きに亘り開催している「くらしきコンサート」でステージに飾る花の仕事の依頼であった時である。当初は、いかに立派な花を飾るかということを考えていたが、依頼主から「気が付けばそこに花があったんだという程度でいいんですよ」と示唆され、花が主役にならず、花を飾る場や人をどう引き立てるかという花と環境の調



和に気付いたということである。

[セレモニー関連での提案力]

倉敷市を中心に、ホテルの結婚式関連や葬儀関連の花の注文がある。結婚式では思い出に残る花を演出することで、リピーターとなってくれる顧客の獲得に結びついている。葬儀の場合は、送る人の人柄を表す花の提案を心がけており、ひとり一人に合った花を丁寧にセレクトするようにしている。

フラワーデザインの高い技術力による提案と相手の立場に立った接客を実践しており、オリジナリティが評価されている。

[環境に合わせたお店のディスプレイ]

倉敷駅前が一番街商店街に本店、そこから徒歩5分の天満屋倉敷店にテナントして入居している支店がある。商店街にある本店では、平成25年までアーケードがあったため、路面に鉢物を並べ、無機質になりがちな路地を自然の色彩で彩っていた。残念ながら、老朽化によりアーケードが撤去されてしまったため、依然ほど鉢物を並べられなくなったが、ショーウィンドウ越しに生花を中心にディスプレイを行っている。

天満屋倉敷店の支店は、百貨店の1階にあり、通りに面して来店客の目につく場所であるため、プリザーブドフラワーを主体に生花、鉢物とバランスをとり、ウィンドウには大掛かりな作品を定期的に展示替えしている。



左：本店 右：天満屋倉敷店内支店

[客層に合わせて総合的に花材を仕入れる]

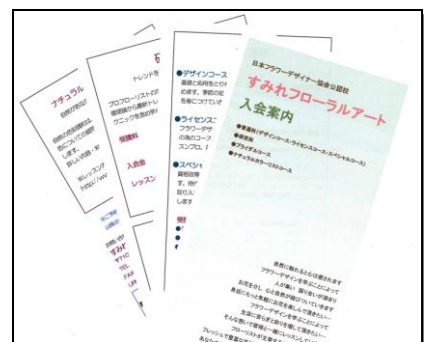
同社の花卉の大半は、岡山市の卸売会社から仕入れているが、希少な花卉の場合はインターネットを活用して仕入れている。

幅広く品揃えをすることで、生け花専門の花材、フラワーデザイン向けの花材、ホームユーザー向けの花材と幅広い来店客のニーズに応えており、この店に行けば欲しい花材が必ずあると顧客に思ってもらっている。

[様々な目的に合わせた教室の開設]

同社では本店の2階と支店で目的やレベルに合わせた様々な教室を開設している。

現在、開設しているフラワーデザインコースでは、初心者を対象としたデザインコース、フラワーデザインの資格取得



向けのライセンスコース、講師や花のプロを目指す人向けのスペシャルコース、プロのフローリストを対象とした研究科、挙式を控えた方を対象としてオリジナルのブーケを作るブライダル科、子供を対象に季節の花に親しみ、構成力と色彩感覚を養うジュニアクラスなどがある。色彩コースでは、自然界の色彩美を学び応用するナチュラルカラーリストの養成、本人が最も安らぎ輝くパーソナルカラー診断などがある。

[働きやすい環境づくり]

店頭での接客など女性従業員の役割は非常に大きい。

しかし、結婚や出産による退職でせっかく蓄積したノウハウが活かされないと大きな損失につながる。そのため、同社では子育てをしながらでも働き続けられるよう、時間帯ごとに短時間でのシフトを組んで、女性従業員の仕事の継続を支援している。

また、従業員への指導方法は、フラワーデザインの基本的な花型を徹底的に身に付けるように指導している。その上で、各人の感性を生かした自由なデザイン力を発揮してもらえるように、それぞれの経験に応じて、繰り返し指導している。

花は奥深く終わりはないと考えから、この様な指導により、常に従業員が勉強することでデザイン力を磨き、他店との差別化を図ることにつながっている。

【店舗立地】

岡山県倉敷市の倉敷駅前にある一番街商店街に自己所有の本店があり、そこから徒歩5分の天満屋倉敷店の1階に支店がテナントとして入居している。本店のある商店街では、アーケードが撤去され、周囲で閉店するお店も見られる。同社の個人客、法人客は、ともに倉敷市内が中心だが、近年は岡山市の法人客からも引き合いが増えている。

本店から1km以内に生花店が2店あり、競合状態にある。取扱商品は生花が88%、鉢物が10%、その他が2%という構成になっており、生花が主体となっている。

【店舗実績】

昭和24年に現在の代表取締役社長の祖父が創業。現社長が仕入と営業を担当し、会長が運営全般、社員教育や教室の運営は専務が行っている。地域密着型の店舗として、地元で愛される良い商品を出せるだけ安く、良心的に提供することを経営方針としている。



↑専務取締役の高橋洋子さん

売上高は1億3千万円を超えるが、本業の生花の売上は減少傾向にある。

従業員は16名おり、長年働いている従業員が同社の力になっている。

同社の専務は、日本フラワーデザイナー協会本部講師、また花キューピッドインストラクターとして全国から集まるフラワーデザイナーの指導にあっている。以前は、1万円の注文をいただいたら、1万5千円くらいに見栄え良く作成することを考えていたが、今は花を飾る場や人をどう引き立てるかということ念頭に置き、花を飾る空間や好みをよく理解した上で、最適な花の提案を心がけている。